

高校生が「喰ってやる！最上传承野菜」でジモト支援

郷野目 香織（山形県・新庄市立図書館）

1.はじめに

地方の公共図書館が、地域の活性化に尽力する個々の活動を繋ぐ役割を担うことで、ひいては地域全体へのビジネス支援となることを、山形県の新庄市と新庄市立図書館をモデルケースにして考察する。

2.地域(広域)の背景・現状・課題を知ろう

新庄^{しんじょう}市立図書館（以下「新庄図」と略す）が所属する新庄市は、東北地方・山形県北東の内陸部にある山間の田園・豪雪地帯であり、江戸時代には新庄藩主戸沢家が 11 代に渡って治めた城下町として栄えた。新庄図は最上^{もがみ}広域（新庄市と周辺の 4 町 3 村）唯一の公共図書館として、山形県の人口 1,036,400 人の内、最上広域 67,048 人（2023 年 2 月 1 日現在、うち新庄市人口は 32,843 人）の知の拠点としての中樞を担っている。

残念ながら広域人口は減少の一途を辿っており、『第 2 次新庄最上定住自立圏共生ビジョン』p.8 では、最上広域（圏域）の人口を、

「令和 22 年（2040 年）の推計値においては 47,453 人と、平成 27 年（2015 年）10 月の国勢調査よりも約 40%人口が減少するとされている。」

と予想している。とりわけ県内 4 地域の中で唯一、大学・短大が無い最上地域では、『新庄市人口ビジョン』pp.14-16 によると、毎年 400 人以上の若者が地域外へ進学する一方で、地域内へ就職するのは毎年 100 人前後としている。

新庄市は「まちゼミ」「バル」と共に“商店街活性化三種の神器”と言われる「100 円（縁）商店街」発祥の地だが、『令和 4 年度最上地方の概況』p.19 でも、既存の商店街つまり中心市街地の空洞化は深刻だと指摘している。

つまり地域活性化には、地元の魅力を感じにくい「若者が U ターンしたくなる仕組み作り」が必要不可欠な課題だ。新庄市も『令和 4 年度施政方針』『第 5 次新庄市総合計画』『第 2 期新庄市総合戦略』等で、若者が地元活性化に取り組む事例・地元（ふるさと）回帰促進・郷土愛育成を謳っている。

3.地域の宝を図書館が繋げよう

こうした現状を踏まえ、新庄市を含む最上広域の現状を打破すべく 2017 年度に開校したのが山

形県主管事業「新庄・最上ジモト大学」(以下「ジモト大学」と略す)だ。地元で活躍する大人たちが提供する多彩なプログラムの中から選んで体験できる、高校生版「まちゼミ」と言えよう。高校生が進学・就職などで地域を旅立つ前に、地域の大人と対話し協働することで、時代の変化に対応できる”生きる力”を身につけ、将来地域を支える中心的人材になることを期待する事業だ。

「新庄・最上ジモト大学フォーラム」チラシによると、2022 年度は 42 プログラムが企画され、高校生延べ 700 名以上が参加した。ジモト大学の事務局は、新庄図の指定管理者である一般社団法人とらいあ(以下「とらいあ」と略す)が協働事務局を担っている。

そこで今回は、新庄図が提供するジモト大学のビジネス支援プログラムとして「喰ってやる！最上伝承野菜」を提案したい。

●プログラム概要

新庄藩の江戸火消が活躍する時代小説『羽州ぼろ鳶組』シリーズ(祥伝社文庫)に出て来る鍋料理を、昭和 20 年以前から最上地域で栽培され自家採種していると認定された「最上伝承野菜」を使って、実際に作り食べようという企画だ。

主人公の奥方が、日本各地(時には海外)の郷土鍋をふるまう場面が人気の『羽州ぼろ鳶組』著者である直木賞作家・今村翔吾氏を招いて、作中のエピソードやアドバイスを頂きながら料理するのがプログラム最大の目玉となる。ちなみに「(火を)喰ってやる！」というパワーワードは、主人公が大火事に向かう時の決め台詞だ。

●事業目的

小説を通じて地元の文化を知ることによって若者の郷土愛を育み、地域活性化の人材育成に繋げることだ。本と食、それぞれに係わる団体・個人と、事業や展示で繋がっている図書館だからこそ実現可能な企画となっている。

高校生は「しんじょう観光大使」でもある人気作家との交流という貴重な体験を通じて、新庄市の魅力を発見することで、将来の夢や進路について考えられる。食後は高校生が鍋レシピを作成して書店と産直に配布し、該当商品(小説・野菜)の隣に置くことで読書推進及び販売促進できる。また、ジモト大学の SNS では全国の今村氏ファンにも希少な在来野菜を PR できる。

●プログラム対象者

2022 年度のジモト大学チラシを参考にして、ジモト大学に参加する最上管内の高校生の内 20 名。少人数で学び・考え・動ける人数を想定して 5 名×4 班と設定する。

●事業予算

ジモト大学の運営費は山形県と最上広域 8 市町村から提供されるが、各プログラムの予算は企画提供者が各自負担という大人側の善意で成り立っている。

本プログラムは人件費を除いて 26 万円と設定するが、新庄図の全体事業予算(指定管理料に含まれる)を上回るため、山形県内の助成金申請も視野に入れたい。例えば、山形県生涯学習センター広報誌『生涯学習やまがた Vol.27』P.8 によると、2023 年度「やまがた地域創生事業」は、「①地域社会の問題解決につながる事業／②山形県についての知識をもとにした地域づくり

を目指す事業」に対して、「助成対象経費の3分の2(市町村は2分の1)又は20万円のいずれか低い額」を助成実施するとしている。

●主要連携先

- ・ジモト大学と同じく山形県管轄「最上传承野菜推進協議会」(以下、「伝承野菜協議会」と略す)。
- ・メディア対応も取り仕切る「今村翔吾事務所 豆州」(以下、「豆州」と略す)。
- ・新庄市民と全国のファン有志による私設ファンクラブ「羽州ぼろ鳶組ファン倶楽部」(以下、「ぼろ鳶ファン倶楽部」と略す)。

開催者である新庄図は、この三者に協力依頼を行い経費や謝金等の相談をしていく形だ。

具体的なプログラム内容は「学ぶ」「喰う」「推す」の全3回(各回4時間程度)を想定する。

◎第1回「学ぶ」

新庄図での座学となり、午前は小説の内容や魅力、最上传承野菜の歴史等について学ぶ。午後は小説の中から鍋メニューを選び、最上传承野菜を使ったレシピを作成する。

◎第2回「喰う」

今村氏を特別講師として招き、午前は小説のエピソードや料理のアドバイスを頂く。昼からレシピの鍋を実際に調理して、今村氏を囲んで鍋を食べる。

◎第3回「推す」

集大成として、午前は選んだ鍋の書名と味の感想を盛り込んだ「本×レシピ」コラボ用紙を作成し、午後はオンラインで今村氏に報告して修了式とする。コラボ用紙は後日ジモト大学事務局がSNS投稿し、地元書店と産直にも報告して配布する。

ここで、本事業の全連携先の主な役割について考えたい。主催者は新庄図で、とらいあは新庄図内の事務局として携わる。

共催者は伝承野菜協議会で、第1回「学ぶ」の講師と、第2回「喰う」の食材仕入れや調理指導等を担当してもらう。同じく第1回「学ぶ」の講師には、市商工観光課長時代から毎年最上広域で今村氏関連イベントを仕掛けて来た功績を持つ、ぼろ鳶ファン倶楽部会長が適任だ。

『羽州ぼろ鳶組』シリーズの出版で新庄市とも縁が深い祥伝社文庫出版部にも、産直と書店両方への作品ポスターやチラシ配布等での販促協力を依頼する。さらに県と市両方にメリットが出るよう、市の担当課には「しんじょう観光大使」として活動する今村氏の広報を担ってもらう。

4.事業の実現可能性を探ろう

果たして、新庄図が本事業を実現することは可能だろうか。まず、高校生が地場産食材を使って活動する事例は、『令和3年度 新庄・最上ジモト大学推進コンソーシアム 報告集』によると、P.28「こだわりのそば『原種最上早生』を使ってそばガールズと一緒に商品開発！」等の報告がある。ま

た、伝承野菜協議会の事務局である県最上総合支庁農業振興課は、積極的に地元の高校生たちと地産地消メニューの考案に取り組み、2022 年度事業「食べて応援！！地産地消で SDGs 寄付金つき地産地消定食」では、最上伝承野菜「畑^{はた}なす」のカレーや「勘^{かん}次郎^{じろう} 胡瓜」のバンバンジー風等を同支庁食堂で提供した。

一方、今村氏と高校生の交流事例は、2019 年度にとらいあが新庄市の補助金を受けて新庄図で開講した「中学高校生のための小説家養成講座 今村翔吾文学塾」があり、18 名が修了して作品集も出した。さらに、今村氏が 2022 年 5～9 月に全都道府県の書店等へ直木賞受賞のお礼に回った「今村翔吾のまつり旅」では、新庄市のゴール会場で塾生たちも花束贈呈した。よって本事業も実現の可能性は十分にあると考える。

事業スケジュールは 1 年計画で、ジモト大学の学校説明会と補助金申請に沿った形で立てる。

- ① PLAN: 計画は 6 ヶ月間。4～5 月に事業立案、補助金申請、連携先への連携協力依頼をする。6 月は補助金採択予定、7 月はジモト大学の高校説明会に同行して本事業の趣旨説明、8～9 月は連携先との会議と準備を重ねる。
- ② DO: 実行は 3 ヶ月間。10 月に「学ぶ」、11 月に「喰う」、12 月に「推す」のプログラムを開催する。
- ③ CHECK: 評価&ACTION: 改善は 3 ヶ月間。連携先へ聞き取り調査して「本×レシピ」コラボ用紙の PR 効果を検証する。

できれば 2 年目以降も継続するには、『広報しんじょう No.776 2022 年 8 月号』P.6 掲載「新庄開府 400 年記念事業」基本方針抜粋で示された「市民提案事業の実施」「開府 400 年記念の商品開発・販売」に注目したい。ジモト大学の「本×レシピ」鍋を市内飲食店で提供できれば、『羽州ぼろ鳶組』の聖地を訪れるファンも増えそうだ。ちなみに今村氏は新庄開府 400 年記念事業の総合アンバサダーでもあるので、鍋コラボメニューも 400 年目の 2025 年に向けて提案したい。

まず、必要となる経費は以下の表の通りだ（ただし人件費を除く）

項目	用途	単価 (円)	数量	小計 (円)
講師謝金・旅費交通費 含む	今村翔吾氏宛	200,000	—	200,000
	羽州ぼろ鳶組ファン倶楽部 会長宛	10,000	—	10,000
市民プラザ賃貸料	調理実習室使用代	730	3 時間	2,190
	暖房費	200	3 時間	600
市民プラザ「ぷらっと」印刷費	コラボ用紙赤黒製版印刷代	1.2	400 枚	480

会議費	会議資料（3回程度）	10	60枚	600
	プログラム資料（3回分）	10	120枚	1,200
消耗品費	A4コピー用紙	—	1,000枚	1,000
材料費	食材・調味料費	10,000	4班	40,000
予備費	—	—	—	3,930
合計（円）				260,000

今村氏宛の謝金は補助金を申請する。ぼろ鳶ファン倶楽部会長宛謝金・賃貸料・印刷費・会議費・消耗品費・予備費は新庄町の事業費から支出する。材料費は新庄町と県最上総合支庁農業振興課（伝承野菜協議会）で折半するよう協力依頼する。

一方、現在活用可能な資産は、調理の時以外は新庄町が会場なので、座学に必要な図書（小説・伝承野菜・料理）をはじめ、館内備品・消耗品をフルに活用できる。

5.おわりに

地方の公共図書館が、地域活性化におけるビジネス支援を行う上で肝要なのは、全ての連携先にメリットをもたらす相乗効果を生み出すことだ。図書館員が地域の現状について貪欲に学び館外へ出て交流すれば、自ずと地域の宝情報が図書館に集まる流れが出来る。公共図書館が地域活性化事業での役割を果たすために必要なのは、どの宝を繋げば三方良しとされるかを見極める目を養うことではないだろうか。

《主な参考文献・引用文献》※各 URL の最終アクセスは 2023 年 3 月 22 日

【2. 地域（広域）の背景・現状・課題を知ろう】

1) 山形県＞最上地域の紹介

<https://www.pref.yamagata.jp/314001/kensei/shoukai/yamagataken/mogami.html>

2) 山形県＞山形県の人口と世帯数（推計）（令和 5 年 2 月 1 日現在）について

<https://www.pref.yamagata.jp/020052/kensei/shoukai/toukeijouhou/jinkou/jinkm.html>

3) 新庄市＞『第 2 次新庄最上定住自立圏共生ビジョン』2021 年 3 月策定

https://www.city.shinjo.yamagata.jp/s002/180/dai2ji_kyoseivision.pdf

- 4) 新庄市 > 『新庄市人口ビジョン』2015 年 10 月策定
<https://www.city.shinjo.yamagata.jp/book/etc/jinkou-vision/html5.html#page=1>
- 5) 『100 円商店街・バル・まちゼミ』長坂泰之編著, 齋藤一成他著, 学芸出版社, 2012 年 12 月
- 6) 山形県 > 『令和 4 年度最上地方の概況』最上総合支庁総務企画部総務課, 2022 年 6 月発行
<https://www.pref.yamagata.jp/documents/28731/r4mogamigaikyou.pdf>
- 7) 新庄市 > 令和 4 年度施政方針(新庄市長)
https://www.city.shinjo.yamagata.jp/s002/050/r4_shiseihoushin.html
- 8) 新庄市 > 『第 5 次新庄市総合計画』2021 年 3 月策定 > pp.144-147, 重点プロジェクト 1 若者や子どもであふれるまちプロジェクト
https://www.city.shinjo.yamagata.jp/s002/040/005/005/06.sougoukeikaku_juutenP.pdf
- 9) 新庄市 > 『第 2 期新庄市総合戦略』2021 年 3 月策定(2021 年度～2025 年度の 5 か年計画) > pp.13-14, 【基本目標 1】: 若い世代の移住・定住を促進する < 具体的な施策と重要業績評価指標 (KPI) >
<https://www.city.shinjo.yamagata.jp/s002/030/040/sinjouisougousennryaku2.pdf>

【3.地域の宝を図書館が繋げよう】

- 10) 新庄・最上ジモト大学
<https://jimoto-univ.com/>
- 11) 山形県 > 「令和 4 年度『新庄・最上ジモト大学』の開講について」プレスリリース資料・チラシ・プログラム一覧(事務局: 山形県最上総合支庁総務課連携支援室, 一般社団法人とらいあ)
<https://www.pref.yamagata.jp/314001/kensei/joho/koho/houdouhappyou/2022/7gatsu/r040713.html>
- 12) 新庄・最上ジモト大学 facebook > 「新庄・最上ジモト大学フォーラム」チラシ, 2023 年 1 月 21 日付
<https://www.facebook.com/jimotodaigaku>

13) 一般社団法人とらいあ

<https://toraia.wixsite.com/toraia>

14) 祥伝社文庫 人気シリーズ公式 WEB サイト> 今村翔吾『羽州ぼろ鳶組』,最終更新 2020 年 8 月 (※13 冊目『恋大蛇 幕間』は 2022 年 3 月出版)

<https://www.shodensha.co.jp/imamura/>

15) 新庄市>しんじょう観光大使紹介

<https://www.city.shinjo.yamagata.jp/s011/010/20210323120052.html>

16) 最上传承野菜推進協議会 (事務局: 山形県最上総合支庁産業経済部農業振興課)

<https://mogami-denshouyasai.com/>

17) 山形県生涯学習センター遊学館> 広報誌『生涯学習やまがた Vol.27』,2023 年 3 月発行

pp.2-4「高校生の地域参画～新庄・最上ジモト大学の実践から～」,

P.8「山形県生涯学習センター助成制度のご案内」

<https://www.gakushubunka.jp/yugakukan/wp-content/uploads/2023/02/d97159831457d3985e13d7.pdf>

18) 歴史小説・時代小説家 今村翔吾(豆州)

<https://www.zusyu.co.jp/>

19) 羽州ぼろ鳶組ファン倶楽部 facebook

<https://www.facebook.com/bolotobi>

【4.事業の実現可能性を探ろう】

20) 新庄・最上ジモト大学>『令和 3 年度 新庄・最上ジモト大学推進コンソーシアム 報告集』,2022 年 3 月

<https://jimoto-univ.com/pdf/report2021.pdf>

21) 最上传承野菜推進協議会 facebook>

2022 年 9 月 13 日投稿「最上総合支庁食堂『寄付金つき地産地消定食第 3 弾』」,

2022 年 9 月 27 日投稿「新庄南高校食物部考案!『地産地消定食』が提供されました」

<https://www.facebook.com/denshouyasai.mogami>

22) 『コトノハの海 令和元年度今村翔吾文学塾塾生作品集』新庄市立図書館監修, 一般社団法人とらいあ, 2020年2月

23) 新庄市 > 【今村翔吾のまつり旅 The Final in 新庄】開催！

<https://www.city.shinjo.yamagata.jp/s022/30/010/20220815102140.html>

24) 新庄市 > 『広報しんじょう No.776 2022年8月号』 > P.6「新庄開府400年記念事業」

<https://www.city.shinjo.yamagata.jp/100/010/009/22koho08.pdf>

25) 朝日新聞デジタル > 2022年5月15日付「直木賞作家の今村翔吾さん、新庄への思い語る開府400年事業で」

<https://www.asahi.com/articles/ASQ5G6S9YQ5GUZHB001.html>